

大館の歴史散歩

古記録・紀行文
を歩く ③

「東北遊日記」にみる 幕末期の大館地方

吉田松陰二十二歳の冬（一八一一年十二月）、関所手形を交付されないまま、彼は江戸桜田の萩藩邸を出て、みちのくへ旅立っている。水戸、白川、会津、佐渡、新潟と回り、翌年二月二十四日に久保田に、そして二十八日には大館に入った。その著書「東北遊日記」（原文は漢文）に、当時の大館の様子を「城有り、即ち佐竹大炊の居する所。属する所の士三百余名、其の家臣また三百許り有り。戸数三千余、皆極めて矮陋なり」と記している。松陰はこの日、白沢の肝煎山内儀兵衛宅（現在笹島家、中世から山内姓を称したが、のち笹島姓に復した。敷地内にはこの時の記念碑が建っている）に宿泊。彼がここを訪れたのは、この儀兵衛という人物がかなり



吉田松陰先生遊歴記念碑（白沢地区）

「白沢村には肝煎が一名と長百姓というのが十二名いる。肝煎はどこの村でも一名だが、長百姓は村の広狭によって人数に差がある。代官という名は、近年御扱役という名にかわって用いられるようになった。御扱役は郡（郡とはおむね十村をいう）ごとに一名いて、管内を巡るのは春夏秋冬の年四回である。春は馬調べといって馬の頭数を検査し、夏は人調べといって人口と宗門の調査をする。秋は諍馬（しやうば）といって二歳駒馬を集めて馬市をし、冬は暮在廻りと称して貢租を取り立てる。租米は二斗五升から三斗で、別に備荒米として、一人につき年に粟なら五升米なら三升を供出する。（備荒米とは、飢饉等に備えての蓄えとして、その供出が義務づけられたものである。）次に米価の相場については、

一升四十九文ぐらいて、江戸などに比べて随分安い、それでもこの辺では高いと言っている。以前は十六、七文という値段であった。その他木綿、炭、塩などの物価にも触れ、これらはすべて野代港から舟で送られてくる。米価が安くて他の諸物価が高いという事が、この地方の農民を苦しめている」と、たった一日の滞在で松陰はこうした話を実に熱心に聞いている。

市役所史跡探訪会

私の本棚

中央図書館新着図書

『裏山の博物誌』

三宅 修 著 山と溪谷社

裏山の雑木林を舞台に、四季折々を通じておりなす草木鳥虫たちの会話に耳を傾ける。自然のやさしさに誘われるままに、相模湖畔に移り住んだ山岳写真家による〈裏山の博物誌〉。



なくそう交通戦争！ 防ごう交通事故！

昭和四十年代には、「交通戦争」という言葉がよく使われました。子供を中心とした交通事故死者数が毎年一万人を越え、多いときには一万余千人以上の死者がでたのです。その後、交通ルールやマナーの徹底により、死者の数は一万人以下に減りました。ところが昨年、十三年ぶりに交通事故死亡者数が一万人を突破し、交通戦争という言葉が改めてクローズアップされています。7月1日現在、県内での交通事故死亡者は四十二人（大館市については表紙参照）。過去十年間で最悪の百八人という犠牲者をだした昨年同期の四十三人に迫るハイペースです。大館警察署によると、今年、市内で発生した交通事故の原因で最も多いのは前方不注意、次がスピードの出し過ぎだそうす。また、一週間のうちで一番事故が多いのは月曜日、二番目が土曜日のこと。休み明けや週末に多いというのとは分るような気がしますね。

これからの季節、夏休みに家族そろってドライブとか、オートバイで風を切る人たちが増えてきます。スピードはおさえ、疲れたら休んで、事故のない楽しいドライブをしてください。

◇異議あり日本史（永井路子）◇クリスマス・イブ（岡嶋二人）◇たそがれ色の微笑（連城三紀彦）◇灰左様なら（村松友視）◇一ぺんに春風が吹いて来た（宇野千代）◇セイフティボックス（山田詠美）◇夢食い魚のブルー・グッドバイ（玉岡かおる）◇ゆめぐに影法師（高樹のぶ子）◇松緑芸話（尾上松緑）◇平成維新（大前研一）◇仕事人間、55歳からの元気のすすめ（鈴木文弥）ほか

◇夏休みおまかせ大事典〔全6巻〕（学習研究社）◇先住民民族シリーズ〔全12巻〕（リブリオ出版）ほか

7月のテーマ関連図書コーナー
『夏休みと自由研究』

親子読み聞かせ会
毎週金曜日 午後2時30分から

中央図書館の休館日・7月16日、27日